

令和8年7月12日（日）施行

第223回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解答

第1問

1	直接材料費	2	間接労務費	3	直接労務費
4	間接材料費	5	間接経費		

第2問

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	材料	700,000	買掛金 現金	690,000 10,000
2	仕掛品 製造間接費	279,000 85,500	貸金	364,500
3	製造間接費	306,000	貸金	306,000
4	仕掛品	520,000	製造間接費	520,000
5	製品	930,000	仕掛品	930,000
6	売掛金 売上原価	1,560,000 1,248,000	売上 製品	1,560,000 1,248,000

第3問

直接材料費

月初仕掛品	？ 個	¥ 69,600	当月完成品	2,470 個	(¥ 1,264,640)
当月投入	？ 個	¥1,236,000	月末仕掛品	？ 個	(¥ 40,960)

加工費

月初仕掛品	？ 個	¥ 22,866	当月完成品	2,470 個	(¥ 2,037,750)
当月投入	？ 個	¥2,074,284	月末仕掛品	？ 個	(¥ 59,400)

第4問

①	ア	②	エ	③	イ	④	オ	⑤	ウ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

第5問

原価計算表

(単位：円)

指図書 摘要	#21	#22	#23	合計
月初仕掛品原価	(223,000)	15,400	—	(238,400)
直接材料費	(1,140)	(4,680)	(3,600)	(9,420)
直接労務費	(92,160)	(153,600)	(42,240)	288,000
製造間接費	(152,064)	(253,440)	(69,696)	475,200
合計	(468,364)	(427,120)	(115,536)	(1,011,020)
備考	完 成	完 成	仕 掛 中	

令和 8 年 7 月 12 日（日）施行

第 223 回 全経簿記能力検定試験 2 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 製缶工場で完成品を入れる出荷用箱の消費額は、製品の製造に明確で直接的に認識できる材料費であるため、直接材料費である。
2. 製缶工場で工員が製缶用機械のメンテナンスに従事する時間に対する賃金消費額は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる労務費ではないため、間接労務費である。
3. 製缶工場で工員が缶のラベル貼りに従事する時間に対する賃金消費額は、製品の製造に明確で直接的に認識できる労務費であるため、直接労務費である。
4. 製缶工場で製造作業を行う工員の作業服代は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる材料費ではないため、間接材料費である。
5. 製缶工場で材料の発注用に用いる機器の賃借料は、製品の製造に明確ではなく直接的に認識できる経費ではないため、間接経費である。

第 2 問

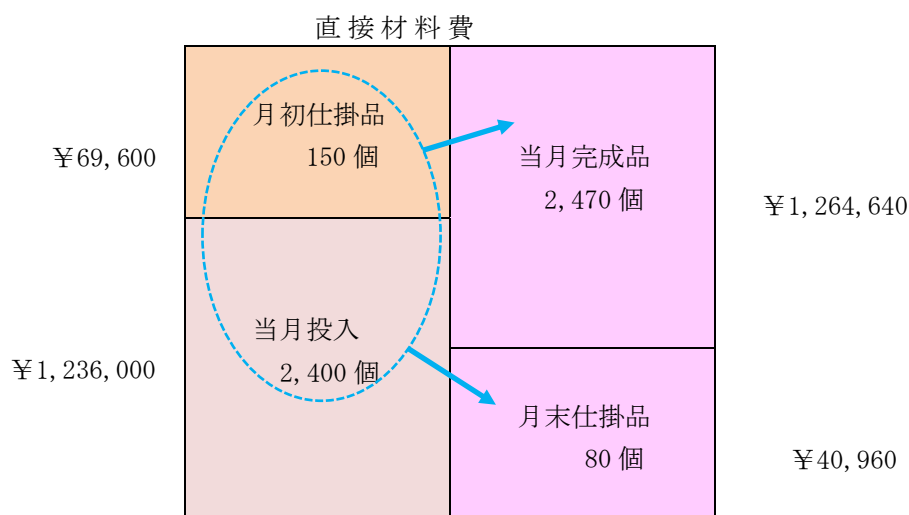
1. 主要材料と補助材料を仕入れた場合には、借方に材料勘定（資産の増加）を用いて処理する。
代金は後日支払うこととした場合には、貸方に買掛金勘定（負債の増加）を用いて処理する。
また、購入に要した引取運賃は現金で支払った場合には、貸方に現金勘定（資産の減少）を用いて処理する。
材料の取得原価＝主要材料 ¥510,000＋補助材料 ¥180,000＋引取運賃 ¥10,000＝¥700,000
2. 当月の直接工による賃金を消費した場合には、貸方に賃金勘定（費用の勘定）を用いて処理する。
当月の直接工による勤務時間のうち段取時間と加工時間に相当する賃金は、直接労務費となり、賃金勘定（費用の勘定）から仕掛品勘定（資産の勘定）へ振り替える処理をする。
当月の直接工による勤務時間のうち間接作業時間と手待時間に相当する賃金は、間接労務費となり、賃金勘定（費用の勘定）から製造間接費勘定（費用の勘定）へ振り替える処理をする。
加工時間：勤務時間 425 時間－段取時間 30 時間－間接作業時間 80 時間－手待時間 15 時間
－職場離脱時間 20 時間＝280 時間
仕掛品（直接労務費）：実際消費賃率@ ¥900×（段取時間 30 時間＋加工時間 280 時間）＝¥279,000
製造間接費（間接労務費）：実際消費賃率@ ¥900×（間接作業時間 80 時間＋手待時間 15 時間）＝¥85,500
※職場離脱時間は、賃金の支払対象外となるため、賃金の計上はしない。
3. 当月の間接工による賃金を消費した場合には、借方に製造間接費勘定（費用の勘定）を用いて処理し、貸方に賃金勘定（費用の勘定）を用いて処理する。
製造間接費：当月の賃金支払額 ¥310,000－月初未払額 ¥32,000＋月末未払額 ¥28,000＝¥306,000
4. 当月の製造間接費実際発生額を各製品に配賦した場合には、製造間接費勘定（費用の勘定）から仕掛品勘定（資産の勘定）へ振り替える処理をする。

5. 当月に完成した製品を倉庫に保管した場合には、完成品の製造原価を仕掛品勘定(資産の勘定)から製品勘定(資産の勘定)へ振り替える処理をする。
6. 倉庫に保管していた製品を顧客に引き渡し、代金は翌日に受け取ることとした場合には、借方に売掛金勘定(資産の増加)を用いて処理し、貸方に売上勘定(収益の発生)を用いて処理する。
また、同時に売上原価を計上した場合には、引き渡した製品の原価を製品勘定(資産の減少)から売上原価勘定(費用の発生)へ振り替える処理をする。
売価は製造原価の125%であるため、以下のとおり、製造原価を計上する。
製造原価：売価 ¥1,560,000 ÷ 125% = ¥1,248,000

第3問

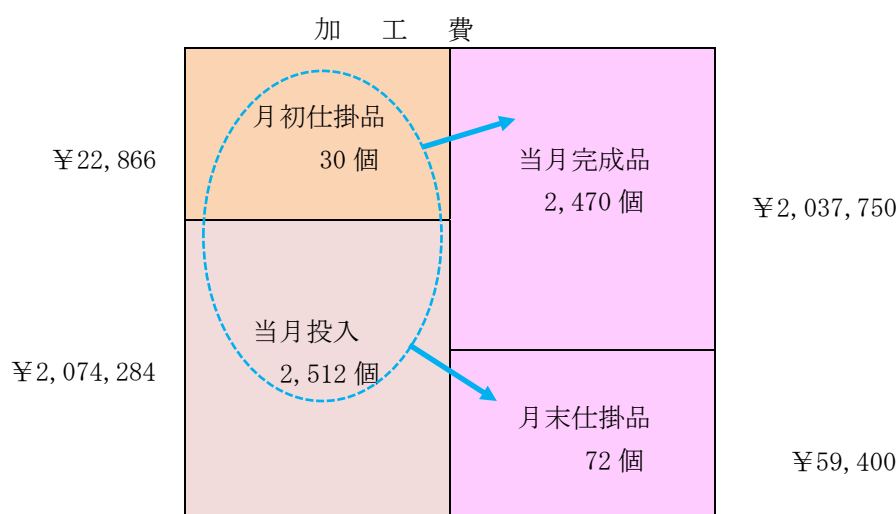
材料はすべて工程の始点で投入しており、月末仕掛品の評価は平均法による。

月末仕掛品原価と完成品原価の算定



月末仕掛品原価：(¥69,600 + ¥1,236,000) ÷ (150 個 + 2,400 個) × 80 個 = ¥40,960

当月完成品原価：¥69,600 + ¥1,236,000 - ¥40,960 = ¥1,264,640



月初仕掛品の換算量 = 150 個 × 20% = 30 個

月末仕掛品の換算量 = 80 個 × 90% = 72 個

当月投入の換算量 = 2,470 個 + 72 個 - 30 個 = 2,512 個

月末仕掛品原価：(¥22,866 + ¥2,074,284) ÷ (30 個 + 2,512 個) × 72 個 = ¥59,400

当月完成品原価：¥22,866 + ¥2,074,284 - ¥59,400 = ¥2,037,750

第4問

- ア. 消耗工具器具備品の当月消費額
→ 材料勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわす。
- イ. 機械の減価償却費当月発生額
→ 経費勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわす。
- ウ. 顧客に対する完成品の当月引渡額
→ 製品勘定から売上原価勘定への振り替えをあらわす。
- エ. 機械の段取作業時間に対する当月賃金消費額
→ 賃金勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわす。
- オ. 完成して倉庫に納入された製品の原価
→ 仕掛品勘定から製品勘定への振り替えをあらわす。

- ① 材料勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわしている。

これは、材料の消費額のうち間接材料費を意味している。よって、消耗工具器具備品の当月消費額をあらわしていることになるため、 **ア** となる。

(借) 製造間接費	(貸) 材料
-----------	--------

- ② 賃金勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわしている。

これは、賃金の消費額のうち直接労務費を意味している。よって、機械の段取作業時間に対する当月賃金消費額をあらわしていることになるため、 **エ** となる。

(借) 仕掛品	(貸) 賃金
---------	--------

- ③ 経費勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわしている。

これは、機械の減価償却費当月発生額をあらわしていることになるため、 **イ** となる。

(借) 製造間接費	(貸) 経費
-----------	--------

- ④ 仕掛品勘定から製品勘定への振り替えをあらわしている。

これは、完成して倉庫に納入された製品の原価をあらわしていることになるため、 **オ** となる。

(借) 製品	(貸) 仕掛品
--------	---------

- ⑤ 製品勘定から売上原価勘定への振り替えをあらわしている。

これは、製品の販売時に、製品の原価を売上原価勘定に振り替えたことを意味している。

よって、顧客に対する完成品の当月引渡額をあらわしていることになるため、 **ウ** となる。

(借) 売上原価	(貸) 製品
----------	--------

第5問

月初仕掛品原価(#21)の計算

資料2. 4月の仕掛品勘定における前月繰越高 と 原価計算表の月初仕掛品原価(#22) より

月初仕掛品原価(#21) : 前月繰越高 ¥238,400 - 月初仕掛品原価(#22) ¥15,400 = ¥223,000

直接材料費の計算

資料4. 当月の材料元帳より

(先入先出法)			材料元帳 F 材料						(単位: 円)		
日	付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1	前月繰越	30	114	3,420				30	114	3,420
	2	出庫(#21)				10	114	1,140	20	114	2,280
	5	仕 入	200	120	24,000				20	114	2,280
									200	120	24,000
	7	出庫(#22)				20	114	2,280			
						20	120	2,400	180	120	21,600
	22	出庫(#23)				30	120	3,600	150	120	18,000
	30	次月繰越				150	120	18,000			
			230		27,420	230		27,420			

直接材料費の転記

材料元帳作成より

#21 : 4/ 2 出庫分 ¥1,140

#22 : 4/ 7 出庫分 ¥2,280 + ¥2,400 = ¥4,680

#23 : 4/22 出庫分 ¥3,600

直接労務費の計算

資料5. 当月の作業時間の内訳 と 解答用紙. 原価計算表の直接労務費の合計 より

- ① 各製造指図書の詳細作業時間を計算する(段取時間と加工時間が直接作業時間となる)

#21 : 2 時間 + 70 時間 = 72 時間

#22 : 5 時間 + 115 時間 = 120 時間

#23 : 1 時間 + 32 時間 = 33 時間

直接作業時間の合計を計算する。

72 時間 + 120 時間 + 33 時間 = 225 時間

- ② 直接工の1時間当たりの賃金(消費賃率)を計算する。

消費賃率 : 直接労務費の合計 ¥288,000 ÷ 直接作業時間の合計 225 時間 = @ ¥1,280

- ③ 直接作業時間に1時間当たりの賃金(消費賃率)をかけて直接労務費を計算する。

#21 : 72 時間 × @ ¥1,280 = ¥ 92,160

#22 : 120 時間 × @ ¥1,280 = ¥153,600

#23 : 33 時間 × @ ¥1,280 = ¥ 42,240

製造間接費の計算

資料 5. 当月の作業時間の内訳 と 解答用紙. 原価計算表の製造間接費の合計 より

- ① 各製造指図書の詳細作業時間を計算する(段取時間と加工時間が直接作業時間となる)

#21 : 2 時間 + 70 時間 = 72 時間

#22 : 5 時間 + 115 時間 = 120 時間

#23 : 1 時間 + 32 時間 = 33 時間

直接作業時間の合計を計算する。

72 時間 + 120 時間 + 33 時間 = 225 時間

- ② 製造間接費の 1 時間当たりの配賦額(配賦率)を計算する。

配賦率 : 製造間接費の合計 ¥475,200 ÷ 直接作業時間の合計 225 時間 = @ ¥2,112

- ③ 直接作業時間に 1 時間当たりの配賦額(配賦率)をかけて製造間接費を計算する。

#21 : 72 時間 × @ ¥2,112 = ¥152,064

#22 : 120 時間 × @ ¥2,112 = ¥253,440

#23 : 33 時間 × @ ¥2,112 = ¥ 69,696

各指図書の集計

指図書 #21 <前月より製造着手 当月完成>

月初仕掛品原価	¥	223,000
直接材料費	¥	1,140
直接労務費	¥	92,160
製造間接費	¥	152,064
合計	¥	468,364

指図書 #22 <前月より製造着手 当月完成>

月初仕掛品原価	¥	15,400
直接材料費	¥	4,680
直接労務費	¥	153,600
製造間接費	¥	253,440
合計	¥	427,120

指図書 #23 <当月より製造着手 当月仕掛中>

月初仕掛品原価		—
直接材料費	¥	3,600
直接労務費	¥	42,240
製造間接費	¥	69,696
合計	¥	115,536